

正 信 念 仏 偈 29

■道綽讚（前回の続き）

道綽決聖道難証	道綽、聖道の証しがたきことを決して、
唯明浄土可通入	ただ浄土の通入すべきことを明かす。
万善自力貶勤修	万善の自力、勤修を貶す。
円満徳号勸専称	円満の徳号、専称を勧む。

道綽禅師は、聖道門の教えによってさとりのは難しく、浄土門の教えによってのみさとりに至ることができることを明らかにされた。自力の行はいくら修めても劣っているとして、ひとすじにあらゆる功德をそなえた名号を称えることをお勧めになる。

~~~~~

☆道綽教学の背景 = 末法思想への意識

- ① 大聖釈尊が亡くなり、時は末法に至っている。（時代）
- ② 聖道門の教理は奥深く、機の能力は甚だ微弱である。（機根）・・・二由
- ※『大集経』「月蔵分」の文より聖道門の難証を示される。・・・一証

☆約時被機（時代と機根に適応した教え）

『安楽集』第一大門（七祖篇 182）

第一大門のなか、教興の所由を明かして、時に約し機に被らしめて勧めて浄土に帰せしむとは、もし教、時機に赴けば、修しやすく悟りやすし。もし機と教と時と乖けば、修しがたく入りがたし。

⇒自らの仏道を選ぶにあたっては、時代と根機（仏道を歩むにあたっての能力）をふまえるべきである。いかに優れた教えであっても、時代と根機に適合していなければその仏道を歩むことは困難。

○「万善自力貶勤修 円満徳号勸専称」

万行諸善の小路より 本願一実の大道に  
帰入しぬれば涅槃の さとりはすなはちひらくなり（註釈版587）

『教行信証』信文類（註釈版244）

道の言は路に対せるなり。道はすなはちこれ本願一実の直道、大般涅槃、無上の大道なり。路はすなはちこれ二乗・三乗、万善諸行の小路なり。

称名念仏の勧め

もし起悪造罪を論ぜば、なんぞ暴風駛雨に異ならんや。ここをもつて諸仏の

令和5年 4月16日 信行寺仏教入門講座

大慈、勧めて浄土に帰せしめたまふ。たとひ一形悪を造れども、ただよく意を繋けて専精につねによく念仏すれば、一切の諸障自然に消除して、さだめて往生を得。なんぞ思量せずしてすべて去く心なきや。

(『安楽集』第三大門／七祖篇242)

濁世の起悪造罪は 暴風駛雨にことならず

諸仏これらをあはれみて すすめて浄土に帰せしめり (註釈版588)

※『歎異抄』(註釈版844)

さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし

『安楽集』第一大門(七祖篇184)

いまの時の衆生を計るに、すなはち仏世を去りたまひて後の第四の五百年に当れり。まさしくこれ懺悔し福を修し、仏の名号を称すべき時なり。もし一念阿彌陀仏を称すれば、すなはちよく八十億劫の生死の罪を除却す。一念すでにしかなり。いはんや常念を修せんをや。

※「正信念仏偈」依釈段総讚(註釈版204)

印度西天之論家 中夏日域之高僧 顕大聖興世正意 明如来本誓応機

(印度西天の論家、中夏・日域の高僧、大聖興世の正意を顕し、如来の本誓、機に応ぜることを明かす)

親鸞聖人の機根と教法の関係(『教行信証』註釈版413)

まことに知んぬ、聖道の諸教は在世・正法のためにして、まったく像末・法滅の時機にあらず。すでに時を失し機に乖けるなり。浄土真宗は在世・正法・像末・法滅、濁悪の群萌、齊しく悲引したまふをや。

聖道門…「すでに時を失し機に乖けるなり」

本願法…「如来の本誓、機に応ぜることを明かす」

※「如来所以興出世 唯説彌陀本願海」(註釈版203)

(如来、世に興出したまふゆゑは、ただ彌陀の本願海を説かんとり)

『教行証文類』「行文類」(註釈版141)

大行とはすなはち無碍光如来の名を称するなり。この行はすなはちこれもろもろの善法を撰し、もろもろの徳本を具せり。極速円満す、真如一実の功德宝海なり。ゆゑに大行と名づく。しかるにこの行は大悲の願より出でたり。

⇒ 円満徳号の専称(勸)

⇒ あらゆる善根功德を満たした「南無阿彌陀仏」の名号